様式1

令和 5 年度　学校評価表

学校教育目標	「夢や志に向かって挑戦する生徒の育成」
a　ミッション	「コミュニティ・スクールを基盤とした『向東の対話』を活かした深い学びの創造」
a　ビジョン	「学校と地域が協働し，子供の未来を拓く学校」

尾道市立向東中学校

評価計画					自己評価						学校関係者評価				改善計案
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	総合評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
学力の向上	主体的に学び続ける生徒の育成	主体性を育む道徳教育と確かな学力の向上	（１）道徳の授業を通じた対話的な学びの深化 ① 対話の充実 ・対話方法の多様化 ※生徒どうしの対話，教材との対話，自己内対話など，意図を持って対話を仕組む ② 自己内対話の充実 ・自分事として考える時間 （２） 各教科における対話的な学びの充実 ① 対話的な授業の充実 ・個人の考えを持つ時間 ・意見を出し合う時間 ・話し合いの時間 ・共有する時間 ② 学び合い，教え合いの時間の充実 ・共感的人間関係を基盤とした，人間関係作り	○生徒アンケート 「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている。」に肯定的に答える生徒の割合 R4　９３%	95%	86%		91%	B		７月のアンケートでの肯定的評価は86%であった。対話を通じての話しの深まりや広がりを教師が評価したり，生徒が考えたくなる課題設定の工夫を通して，対話的で深い学びの実現に繋げていきたい。	8			・既に取り組まれているかとは思うが，学級の友達以外とのつながりも意識させた方が，子どもの居場所は確保できるのではないだろうかと思った。 ・目標値を超えており，先生方の努力が垣間見える。 ・自分の頭の中に思いはあってもそれを言葉に出して人に伝える作業は、繰り返しが必要なことだと思うので、苦手としている子どもも少しずつ慣れていくことができればと思う。授業参観の時に、グループで話し合い、まとめて、最後に発表する様子を見ていても、子どもたちの表情が生き生きとしていて、楽しそうだなと感じた。対話的な学びの大切さを感じる。 ・中学生の時代に「対話の充実」を柱に置いた学校環境で学べることは将来にわたりより影響や心の成長につながると考えられる。生徒、教職員ともに今の学校の雰囲気を肯定的に思っている割合が高いのは、望ましい状態だと考えられる。今後もこのムードが継続し、発展していくことを願う。 ・教職員アンケートの肯定的な評価100%で、目標達成だと思います。 後半に向けて新たな指標や達成目標、評価基準を検討され進めていただきたいです。 考え方や物の見方は子によって異なること認識させると供に、自己成長のために他人の考え方や物の見方を参考にすることで、自己成長が図れることを体感させていただきたいと思います。 学期ごとに学びの自己評価をさせるとともに、他己評価してもらい自分が気付かない良い面を知り次学期に生かすといった取り組みがあって模様と思います。 ・１学期の授業参観には１度しか参加できていないので十分な評価はできないが，「むかいひがし」の対話をうまく活用されていると評価する。 ・考えを広める、深めるといっても非常に奥が深い話だと思う。課題設定の工夫ももちろん大切だとは思う。ただ対話といっても“壁打ちによる考えの整理”や“異なる意見の傾聴”と二つの目的があり、それを意識しないと広める、深めることはできないと考える。またそれ以外にも、メモをとる、ホワイトボードなどで意見をまとめる…など、対話のやり方で随分変わるのではないかと、経験的に感じるところがある。そういった工夫も是非実施いただきたい。 一方で生徒と児童の間で結果に差があるように見える。この要因解析も必要と感じた。	・授業公開や研究授業を通して、「むかいひがしのだいわ」を活用した授業作りを深化させていく。 ・４人の学習班を作って対話をさせる。また、対話の場面では役割分担を明確にし、生徒全員が対話に参加しやすい仕組みをつくる。 ・
				○教員アンケート 「対話的な学びが，学力の向上や心の成長につながっている。」に肯定的に答える教師の割合	90%	100%		111%	A		７月の肯定的評価は100%であり、教職員一同、対話的な学びが学力の向上や心の成長に繋がることを理解し、各授業で対話場面の設定を工夫しながら行っている。					
				○ 学力調査 １２月の学力調査で，全国平均を１００としたときの基本問題の正答率 正答率÷全国平均×１００	100%	-			-							
生徒指導の充実	心身ともに成長しようとする生徒の育成	互いに尊重し合い，協働的に学び合える関係を充実する中でリーダーの育成を図る	①互いに尊重し合い，協働的に学び合える関係の構築の充実 良さや頑張りを認め合い，協力して高め合うことができる関係を道徳教育で構築する。 ②リーダーの育成の充実 リーダーを中心とした生徒主体の活動を活性化させる。	生徒アンケート 「互いの良さや頑張りを認め合い、仲間と協力して高め合うことができている」の肯定的回答が８５%以上	85%	88%		104%	A		７月の生徒アンケートでは、肯定的回答が８８%で目標値を上回った。体育大会の練習期間や本番において、本気で頑張っている生徒に対して個人賞を渡す取組を行い、頑張りを認め合う雰囲気をつくることができた。行事等の中では取組を行っているが、日々の生活や授業の中で、良さや頑張りを認め合う活動を仕組む必要がある。	8			・頑張っている生徒をほめる文化ができていることが素晴らしいと感じた。 ・対話的な学びからもつながることだ思う。お互いの良さに気付いて認め合い、頼りにしたり頼られたり、自己肯定感の向上も期待できると思う。 ・体育祭ではよい雰囲気で個人賞に盛り上がり称えあう姿が印象的だった。生徒たちが主体となっていることもよいと思う。日常では、派手な頑張りのアピールのみならず、個々の良さの新たな発見、意外な長所などを掘り起こして様々な角度で光が当たるとよいなとも思う。 ・認める、褒めるは指導の中で最も大切なことだと考えています。生徒のやる気の芽をつくり育てることが重要です。 本気で頑張っている生徒を表彰することは良いと思います。ただ、表彰の規準を明確にし、ある程度誰もが納得するものでなければ継続は難しいと感じます。 ・体育祭での生徒の姿を見ていると「一生懸命頑張る」ことを素直に受け入れている。自分だけでなくまわりの友だちに対しても「すごい」「頑張っている」という他者を認める心が育っていると感じた。 ・体育大会での取り組みは具体的な工夫が見られて、観覧していても、生徒たちのいきいきした様子をとても感じ取ることができた。	・道徳や学活で互いの良さや頑張りを伝え合う活動を実施する。 ・個人賞など賞をもらえる基準を明確にすることで、良さや頑張りを見つけやすくするとともに、誰もが納得できるようにする。
				教職員アンケート 「リーダーを中心とした生徒主体の活動が充実している」の肯定的回答が９０%以上	90%	90%		100%	A		７月の教職員アンケートでは、肯定的回答が９０%で目標値に達した。ええじゃんや体育大会において、細かく役割分担を行うことで、リーダーの人数を増やし、多くのリーダーが活躍しながら、生徒主体で活動が進んでいくようにすることができた。リーダー以外の生徒も主体的に活動できる取組を仕組む必要がある。	8			・人任せではなく自発的に色んな事に目を向けて行動できることが大切だと思います。 ・リーダーが様々な場面でいることや，役割を交代しながらリーダーをこなしている様子が伝わって来て良いと思った。 リーダーの経験は，社会に出てから役立つと思われる。 ・生徒一人一人が考えて動ける環境を作っていくことは、生徒自身のやる気にも繋がってくと思うので、とても大切なことだと思う。生徒主体の活動でより多くの生徒が活躍できることを願う。前に出ることが苦手な生徒も日常生活の中で自分の力が発揮できる取り組みがあれば目標につながるのではないだろうか。 ・一年の初めの時点で、この項目に関して、全教職員が肯定的な思いを共有できているのが確認できたので、今後この項目自体が必要なのかどうかが疑問だが、様々な行事や日常においても継続的に生徒たちの内なる思いが立ち上がる機会があるとよい。向東特有の長い人間関係や力関係を察して、リーダーに手を挙げたことがない子もいる。場合によっては、先生からそっと背中を押されて急にリーダーになるケースもあるので、遠慮して手を上げずにいる子にも臨ながら背中をおす場面があってもよいように思う。 ・コロナの規制も外れ、生徒たちが主体となって行動する非常に良い体育大会だったと思います。 今回リーダーを経験していない生徒が別の行事でリーダーの経験ができるよう工夫していただきたい値思います。リーダーを経験し、人を動かす事、まとめることの難しさを体験することで主体性や協調性がはぐくまれると思います。その際、先生方の事前の計画や仕掛け、サポート等も必要となり業務二増が気になります。 ・今後も、一人ひとりが活躍できる場、輝ける場を仕組んでいってほしい。 ・体育大会の様子を見てもリーダーを中心にした活動ができていたのだなと感じることができた。 一方でリーダーという役割が苦手な生徒もいると思う。記載されている通り、リーダー以外の生徒の主体的な取り組みに結びつけるかは、重要な課題であると思う。 その上で、（1）-①にあるように、いろんな意見を出し合い、議論を重ねていくという活動が重要になっていくのだと考える。	・リーダーとして活躍できる場面を増やしていく。 ・リーダー育成の活動ではなく、多くの生徒が主体的に活動に関わることができるように、意見を吸い上げ、企画していく流れの取組を増やしていく。
信頼される学校づくり	地域や社会に貢献できる生徒の育成	保護者への情報発信を工夫するとともに時代に即した働き方を推進する	（１）情報発信の充実 ○保護者との連携を密に，きめ細やかに即時対応を行う。 ① 些細なサインも見逃さず，問題発生時に即時対応する。 ② 心配事がある時に電話連絡及び直接連携をする。	○ 保護者アンケート 「心配事がある時学校に相談することができる」と答える保護者の割合	95%	86%		90.5%	B		「相談しにくい」と回答された理由 ・相談しても肯定的に受け取られない ・相談しても先生の本音を聞くことができないように感じた ・性格上（自分から相談するという事に抵抗がある） ・相談しても良い解決策は得られない ・誰に相談して良いかわからない。 ・先生の経験値が足りなさそうで解決できないと思われるため	8			・相談＝信頼関係だと思うので普段からの生徒と保護者への関わりで、信頼してもらうしかない。 ・子どものことで何か気になった時に、すぐに連絡が取ることができ、話すことができる環境は大切なことだと思う。４月の懇談会は、担任と保護者が対面で話す最初の機会なので、短時間ではあるが大事にしてほしいと思う。 ・マイナス要因についても精査し、工夫をされている。心が取り残されるような生徒が出ませんように。 ・保護者や生徒とつながるのは、基本は担任ですがこだわる必要はないと考えます。 窓口は担任として、主任や費護教諭、部活動顧問、スクールカウンセラーがチームで、関わればよいと思います。 教職員からの答えの提供ではなく、生徒のために供に考えていくという姿勢が大切だと思います。 ・運営会議の中でも議論されてが、思春期という世代の心の捉え方は家庭内と学校内では姿の見せ方が違うと感じる。地域も含めて生徒の姿を連携し、共有していくなかで見えることがあり、解決の糸口がつかめるのではないか。 ・“結果の説明”にアンケートの結果をここまで赤裸々に記載されること自体評価できると思う。 本欄のコメントとは少し離れるかもしれないが、8月4日の議論に関わることで、岡崎市教育委員会が取り組んでいる“F組”の内容が参考になると感じた。（8月22日　日本経済新聞　「愛知県岡崎市の不登校対策　全中学校に「自由な居場所」」）	・引き続き、生徒や保護者と連携を取りながら、関係づくりを構築していく。 ・学校からの連携内容も心配事だけでなく、頑張っている姿などを伝えていく。 ・引き続き節目に生徒の全員面談を全教職員で行い、生徒の変化に気付いていく。 ・引き続き関係機関との連携に取り組んでいく。
			○コドモンの積極的活用	○保護者アンケート コドモンの活用に対して肯定的評価の割合	95%	96%		101.0%	A		学年通信などのたよりや配布物等の連絡をコドモンで発信し、生徒の渡し忘れに対応できている。継続して発信をしていく。	8			・とても助かっています。 ・保護者のライフスタイルの変化に対応していると思われる。 ・コドモンの利用は、とても手軽で使いやすい。 ・コドモンは時代のニーズに合っていることがわかる。 ・生徒の指導において保護者や地域の協力は欠かせません。事情により学校に来ることができない方もおられます。今後も継続してこまめな情報発信でつながりを維持してください。 ・小学校でも今年度“コドモン”での情報発信を積極的に活用されている。こういうデジタルツールによる発信は一定のリスクも考えられるが、利便性は高いので積極的に活用した方がいいと思う。	・継続してコドモンを積極的に活用していく。
			（２）時代に即した働き方の促進 ○時間を意識した働き方の推進	○月の時間外勤務が８０時間以下の割合	90%	71%		78.4%	C		昨年度に比べ時間を意識して業務に取り組んでいるが、目標数まで達していない。時間を見いだす工夫・改善が必要である。	8			・部活動でやる気のある子どもがどうすれば良いか考え、アドバイスする必要がある。 ・学校レベルでの取り組みも必要だが，文部科学省や教育委員会レベルでの変化が必要だと思っている。 ・具体的な取り組みで改革を進めていこうとする姿とても素晴らしいことと感じている。部活動の指導を地域や外部コーチへ協力を広げいくことができれば教職員の方の負担も軽減されるのではないだろうか。 ·思い切った改革をされたと思います。その後の成果や変化などをまたお聞かせください。 ・先生方の健康（体と心）が教育にとって大切です。声を掛け合いながら超過勤務時間の短縮を図ってください。 ・登下校の時間を変更することも必要。教職員と一個人としての生き方にどう折り合いをつけていくのか意識変革も必要だと感じる。 ・難しい課題に対して、具体的な取り組みを実施されていることはとても素晴らしいことだと思う。 教職員の働き方を見ていると、なかなかデスクワークに集中できる時間が取り辛い側面があるのではないかと感じるところがある。今回そういった時間を設けるよう時間割を変更されたことは素晴らしいと思う。	以下の取組を行い、改善を図る。 　○完全下校を18：00から17：30に変更する。市内駅伝～2月末までは17：00とする 　○朝練は大会前１週間以外は無くし、生徒の登校は7：45以降を呼びかける 　○定期テスト最終日は給食なしの3時間授業とする。 ・１学期の時間外勤務時間と２学期の時間外勤務時間について比べ、成果があるかどうかの検証を行う。 ・提出期限を守ることと主任主事が先を見越えた計画を立てる。 ・各学年での取組や締め切りを見える化できるように掲示版の活用を促していく。
			○ライフワークバランスの推進	○教職員アンケート「計画的に仕事に取り組んでいる」肯定的評価の割合	80%	80%		100.0%	A		2学期も行事等の取組を計画的に進めていく。	8			・計画的に進めることは結果的に生徒に還元されるのでぜひこのまま進めていただきたい。 ・上記の目標とともに相乗効果で達成率が上がっていくと思われる。 ・生方の心身の健康や日々の充実は大切。ライフワークバランスの推進、取り組みは大いに賛成。 ・コロナの影響で縮小されていた行事も多く新たに作り出す感覚で準備も大変だと思います。計画的に分担した業務遂行を行ってください。 ・計画的に仕事を進めることは、正直なかなか難しいこととは思うが、濱原校長先生のもと、確実に実施されるものと思う。	

【自己評価　評価】　A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100　C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。